

興味をひかれた文章があったので、以下に紹介する。

ある世界的なチェロ奏者が、あるテレビ番組で、子どもたちに音楽を教えていた。そして、その番組の中で、チェロ奏者は、子どもたちに一つのクイズを出した。バッハの無伴奏チェロ組曲の同じ曲について、3人のチェロ奏者の演奏を聴かせ、誰が最も若い年齢の演奏者で、誰が最も歳を取った演奏者かを当てさせた。

このクイズの結果は、静かな驚きを禁じえないものだった。子どもたち全員が、最も歳を取った演奏者と感じたのは、実は、若い頃のチェロ奏者の演奏だった。そして、最も若い年齢の演奏者と感じたのが、それから16年の歳月を経た、最近のチェロ奏者の演奏だった。

伸びやかに、軽やかに、その精神の若々しさを感じさせる演奏は、ソビエト抑留の苦難の歳月を経て、年輪を重ねたチェロ奏者のものであった。

このチェロ奏者の演奏を聴くとき、我々は、今、世の人々が常識と思って信じていることが、実は一つの「迷信」であることに気がつく。人は、歳を取ると精神の若さと瑞々しさを失っていく。そして、それが迷信であるならば、いつの日か、新たな常識が生まれるかもしれない。

人は、長き歳月を歩み、人生の苦難を乗り越えていくほどに、精神は、若く瑞々しくなっていく。

ここ数年、自分では歳を取ってきていると感じなくても、ちゃんと、体が教えてくれている。「あなたは、歳をとってきていますよ」と。体の衰えは如何ともしがたいが、精神の持ちようとなると、実際の年齢は若いはずなのに、若さを感じない人がいる。逆に、見た感じは年齢がいつているのに、実に若々しい方がいる。

30代までは、見た目と実年齢にそれほど差はないように思う。もちろん、個人差はあるが。それが、40代以降になると、見た目から実年齢を当てるのがかなりむずかしくなる。それまで歩んできたその人の人生が目に見えるのかもしれない。どんな経験を積んで、どんな思いをしてきたかが如実に表れるのではなかろうか。

若さを失ってしまった40代の方もいれば、若々しい50代の方もいる。若々しいからといって苦労を重ねてきていないわけではない。多くの苦難と共に人生を歩んできた方もいる。次から次へと襲いかかってくるピンチに、何を考え、どのように対処してきたのか。ピンチを乗り越えた先に何を見たのか、あるいは感じたのかによって、その人の若々しさが変わってくるのではなかろうか。

世の中には、若者に対する思い込みや固定観念がある。反対に年配の方へのそれもある。迷信とまでは言わないが、思い込みや固定観念などは、なかなか払拭できるものではない。ステレオタイプもそうである。ステレオタイプとは、社会に広く浸透している固定的な概念やイメージのことである。型通りのイメージ、紋切り型の考えとも言える。最も分かりやすい身近な例は血液型である。

迷信とは、誤って信じることである。これからも、迷信に惑わされることなく、伸びやかに、軽やかに、その精神の若々しさを感じさせるように歳を重ねていきたいものである。